

平成29年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習 2 「追跡！巨大ナマズー湖沼の外来生物問題の最前線ー」		
<p><実習内容></p> <p>日本第2位の湖面積を誇る霞ヶ浦は、治水・利水のための湖岸開発、流域からの流入負荷による水質悪化、水辺植物帯の消失、様々な外来種の侵入などの湖沼環境問題に直面していますが、いまだに国内有数の漁獲量を維持し、高い生物多様性を有する豊かな湖沼生態系でもあります。現在、霞ヶ浦では、外来生物法で特定外来生物に指定されている外来ナマズ（チャンネルキャットフィッシュ）やカワヒバリガイなどが大增殖し、在来生物群集や水産業、人の生活などに様々な影響をもたらしています。実習では霞ヶ浦を調査フィールドに、湖沼の外来生物問題の現状と課題について、実際にフィールドで体感しながら学びます。</p> <p><実習項目></p> <p>(1) 環境調査：沿岸帯での水温、透明度、pH、溶存酸素量等の測定と水質分析 (2) 在来生物の生息状況調査：地曳網、投網、定置網等を用いた魚類の採集、プランクトンネットや採泥器等を用いたプランクトンと底生動物の採集、顕微鏡を用いた観察・同定・計数等 (3) 外来ナマズの生息状況調査：釣りや各種漁具による捕獲調査、生物学的特徴を調べるための解剖、耳石による年齢査定、被害実態を把握するための胃内容物解析、被害実態のヒアリング調査など (4) 実習生のアイデアによる防除手法の開発・試験、防除計画案の作成 (5) 実習の成果発表会</p>			
実習内容キーワード	外来生物、在来生物群集、生物多様性、漁業資源、湖沼環境		
担当教員氏名・所属・役職名	加納光樹・茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター・准教授 荻部甚一・同センター・助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	平成 29 年 8 月 18 日 (金) 昼～ 8 月 20 日 (日) 昼
開講大学・施設名	茨城大学・広域水圏環境科学教育研究センター		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	高速バス停留所「水郷潮来（東京駅から1時間15分、片道1780円）」から路線バス（約20分、300円）もしくはJR延方駅から路線バス（約10分、200円）で「大生原公民館前」下車、そこから当センターまで徒歩で約5分。		
費用	宿泊費（宿泊棟使用料、シーツ代）と食費で8,000円		
授業科目名	陸水外来生物学実習		
単位数	1 単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	15 名
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	先着順。参加希望者は6月30日までに電話もしくはメールでお問い合わせください。詳しい申し込み方法をお知らせします。		
選抜結果連絡法	e-mailによって、履修に必要な情報とともに本人に連絡する。		